

# 県政 NEWS

Innovation

新しい発想・技術・価値観で未来を創る。

【編集発行】 武田翔 政務活動事務所 〒222-0011 横浜市港北区菊名1-6-11 平田ビル3階  
 TEL 045-947-2712 FAX 045-947-2713  
 E-mail : info@shotakeda.com  Facebook 武田翔



## 武田 翔

Takeda Sho

**プロフィール**  
 昭和56年生まれ  
 神奈川県議会議員(1期)  
 米国・カリフォルニア州大を卒業後  
 参議院公設秘書を経て  
 平成27年神奈川県議会議員選挙  
 横浜市港北区に初当選。  
 一児の父でもあり  
 子育てと教育政策に  
 力を注いでいる。

## 【2018年度 県予算案可決】 1兆8千億円は「何手先」を見ているか

県議会の第1回定例会におきまして、来年度の県予算案が可決されました。黒岩県政が2015年から進めてきた神奈川県のグランドデザイン、その一般会計の規模は総額1兆8329億円に上ります。今回の予算では教育・子育て分野に対して重点的に配分されたのが特徴です。

教育関連では、これまで年収約250万円未満の世帯までに限られていた私立高校の学費補助対象が、**倍以上の年収約590万円未満世帯まで一気に拡大**されます。また、教員の多忙化を緩和するため、すべての県立高校に「業務アシスタント」を配置し、また、10校に対しては部活動の顧問として指導を行う「部活動指導員」の配置も試験的に行われます。

子育て関連では、認可保育園などに入れない待機児童問題の解消に向け、都市部などの賃料が高い地域で運営される保育所に対する賃料の一部が補完されます。また、従来は3歳児からだった幼稚園での**預かり事業の対象年齢を2歳児から引き下げるなど、一時預かり事業の補助対象も拡大**されることとなります。

今回の予算案を黒岩知事は「健康と学び、共生を柱にして、子供が100歳まで過ごせるような持続可能な社会を目指す予算」と評価しています。持続可能な社会を目指すには、必要な財源への選択と集中が必要不可欠です。そうした観点からも、今回の予算案における教育・子育て分野への集中は、神奈川県の未来に対する施策としても注目すべきものです。

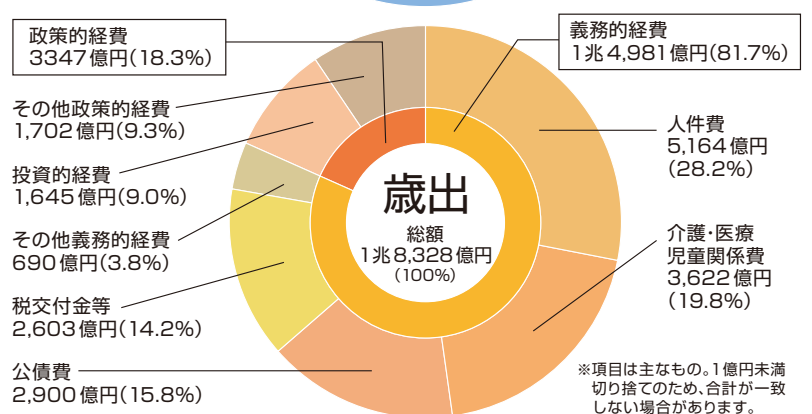
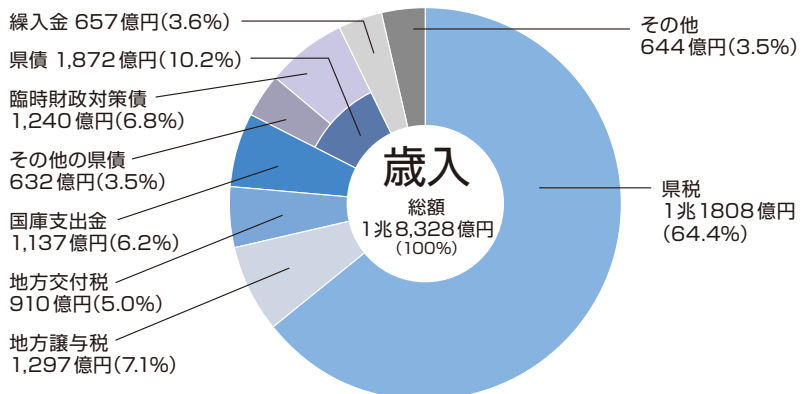
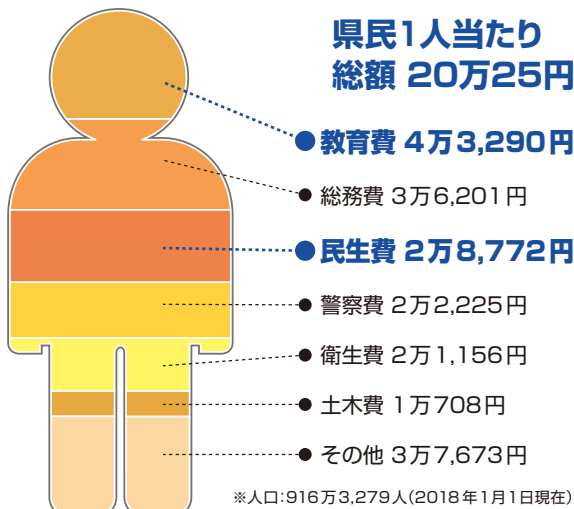
スマートフォンやWi-Fi環境などの整備やAIの台頭が進む現在、政治にも「先手を打つ」、あるいは「先を読む」ことが今まで以上に求められます。従来の「入念なデータの蓄積や検証がそろって、はじめて政策が立案できる」心太(ところてん)方式の行政では、これからの予測不能な社会変化についていくことができません。今回の予算が神奈川県の未来における「何手先」を見据えているでしょうか。世の中は神奈川県が感じるよりも、もっと早い速度で動いている。そう感じられるからこそ、私も大いに注目しています。

## 2018年度 県一般会計予算案

区分	2018年度当初予算額	対前年度比較
一般会計	1兆8,328億円	5.5%減
特別会計	2兆371億円	66.2%増
企業会計	1,173億円	8.0%増
総計	3兆9,874億円	21.8%増

※1億円未満切り捨て

### 【2018年度当初予算の使いみち】



# 「希望と不屈の精神の国」フィリピン共和国視察

1月28日から31日まで、フィリピン共和国を訪れました。

ロドリゴ・ドゥテルテ大統領が就任して早1年半が経ちました。「光」の部分に注目すると治安が安定し、若者は勤労意欲にあふれている印象を受けました。また、みんな優しく、親切丁寧でした。以前は、スリやタクシーのぼったくり、警察官の汚職などは、日常茶飯事だったようです。

「影」の部分は、人権侵害や貧困です。特に経済発展が著しい中、土地の立ち退きをした人々が貧困に陥ったり、スラム街では子どもが裸で歩いているのも目のあたりにしました。フィリピンという国が今後、良くも悪くもなるのもすべて政治にかかっていると思いました。

今回の目的は、ディヤーナ国際学園がカブヤオで運営しているひきこもりなどの青少年の自立支援施設の視察。そして、もう一つのテーマは、神奈川県内の看護師・介護士が不足する中、フィリピンの労働力はマッチングしているのかどうか現状の視察です。

## 〈 ディヤーナ国際学園 〉

ディヤーナ国際学園は親元を離れ環境を変え、寮で共同生活をし、空手の修練を通じて、規則正しい生活をしながら、青少年の自立を支援しています。空手の修練も絶対にしなくてはならないというものではなく、それぞれの青少年が自分の心と向き合いながら、自分の速度で自立を目指していました。私が視察したときは7名の青少年が汗を流していました。引率者から「体を鍛えると心が強くなる傾向はありますが、強い格闘家でも心が折れてしまう場合もあります」と言われ、心と体のバランスの難しさを感じました。国内外に関わらず、施設プログラムが合う青少年は自立ができるようになるし、個人の状態や施設との相性もあるということも認識しました。



## 〈 ローズプリンセス 〉

もともとは、老後はお金のかからない国でゆったりとスロウライフを楽しむための日本人専用の施設でした。最盛期には40人ぐらいの日本人がいましたが、旦那さんが亡くなり奥さんが帰国されるというケースが多く、現在では2名しかいません。そこで施設は、外国へ派遣する看護師の研修施設として生まれ変わりました。私が視察したときは、ドイツに派遣される看護師約40名の研修が行われていました。看護師は、在学中にドイツの人材派遣会社と契約をし、フィリピン国内で看護学部や看護学校を卒業し、その後、約6か月間、この施設でドイツ語の研修を受けます。看護師不足は、神奈川県だけの問題ではなく、各国で青田刈りが行われている現状を目のあたりにし、衝撃が走りました。看護師の待遇も国によって差がありますので、県だけの力では、フィリピンでの看護師確保は厳しいと感じました。



## タクシー配車アプリ「Grab」



先日、フィリピン共和国を訪れた際、タクシー配車のアプリ「Grab(グラブ)」に衝撃を受けました。スマートフォンのGPS機能を利用し、自分の位置と近くを走行しているタクシーを配車でき、目的地までの時間と料金、運転手も乗車前に確認することができます。また、アプリを使っているタクシー業者は、おしなべて新しい車両を所持している傾向があり、乗り心地もよかったです。これもひとつのInnovationだと思いました。携帯さえ持っていれば、社会が変わる体感をしました。